

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際農業工学会
	英	International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering (略称 CIGR)
	団体 HP (URL)	http://www.cigr.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<p>CIGR は現在 SDGs (Sustainable Development Goals) の推進に積極的に農業の生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、土地と土壌の質を改善させるような持続可能な食料生産システム構築のための提言作成を進めている。また、FAO, OECD, UNESCO と連携し、地球温暖化に伴う家畜生産性への影響を検討し、その成果は関係する国や機関が活用している。さらにローマクラブにつぐ国際的提言団体である Club of Bologna と連携し、農産物の安全の確保に関する研究事業に Section VI の食品加工専門委員会が対応している。</p>
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		<p>東欧、東南アジア諸国ではバイオマス・エネルギーの利用が進んでおり研究成果に基づいた提言を行った。21 世紀に入り東南アジアでの農業機械化が急進展している。農業機械化の進んだ東アジアとは気候、土壌等が異なるため、独自の研究が必要で、研究の進め方を助言・支援している。また、我が国のロボット、IoT、AI などのスマート農業技術は世界をリードしており、世界的な潮流になっている。</p>
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		<p>これまで CIGR は欧米の畑作中心であったが、前述のように東南アジアでの農業機械化の進展に対応するため、ASEAN 各国の大学の研究の重要性が増している。特に日本の稲作技術は ASEAN 諸国の学術研究、機械開発を支援している。さらに CIGR に参加することの重要性を、フィリピン、インドネシア、タイなどの会議で働きかけている。</p>
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		<p>我が国は当該学術分野の研究・技術開発で世界をけん引している。また CIGR 事務局・事務局長を 2006 年から 2017 年まで引き受け、かつ理事・監事にもほぼ毎期複数就任しており、CIGR は我が国を中心に運営されているといっても過言ではない。<u>CIGR の活動を日本学術会議(SCJ)が支援していることは、世界に広く知られており、SCJ のプレゼンスを高めている。</u>また上述したように我が国のスマート農業技術は世界的に注目されており、CIGR を通して日本の科学技術を PR している。</p>
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソ)		<p>日本学術会議 CIGR 分科会では、若手研究者の国際活動の場を広げるために <u>日本人若手研究者を中心とする「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」ワーキンググループ (WG) を CIGR に発足させた。</u>2017 年日本生物環境工学会の松山大会では、「2017</p>

様式第 2 (第12条関係)

<p>一スの発掘における画期的な方策等の特記事項など)</p>	<p><u>CIGR World Workshop in Matsuyama</u>」を CIGR 分科会と共催で開催し、<u>大西隆日本学術会議会長 (当時)</u>をお招きして国際会議を行った。</p>
---------------------------------	---

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)</p>	<p><u>2022 年に第 20 回 (XX) World Congress</u> を京都において開催する予定である。World Congress 開催時に総会、理事会も同時に開催される。</p>
<p>日本人の役員立候補等の予定について</p>	<p>事務局長と会長は同地域から出さないと規定があった。事務局長任期が 2017 年で終了したので、<u>World Congress の開催とあわせて、会長候補をノミネートすることで準備を進めている。</u></p>
<p>現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて</p>	<p>日本の若手研究者が中心に進めている「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」WG を充実させ、2022 年の総会において 8 番目の Technical Section に昇格させることを目標とする。</p>

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)</p>	<p>総会開催状況</p>	<p>2022 年 (開催地: Kyoto, Japan) 2021 年 (開催地: Quebec, Canada) 2020 年開催予定であったが COVID19 のため延期。以下 Quebec の Conference はすべて 1 年延期 2018 年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016 年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2014 年 (開催地: Beijing, China)</p>
	<p>理事会・役員会等開催状況</p>	<p>2022 年 (開催地: Kyoto, Japan) 2021 年 (開催地: Quebec, Canada) 2019 年 (開催地: Rhodes, Greece) 2018 年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016 年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2015 年 (開催地: St. Petersburg, Russia) 2014 年 (開催地: Beijing, China) 2013 年 (開催地: Praha, Czech) で研究集会が開催され、同時に執行役員会、理事会を開催した。</p>
	<p>各種委員会開催状況</p>	<p>2022 年 (開催地: Kyoto, Japan) 、2021 年 (開催地: Quebec, Canada) 、2018 年 (開催地: Antalya, Turkey) 、2016 年 (開催地: Aarhus, Denmark) 、2014 年 (開催地: Beijing, China) 、2012 年 (開催地: Valencia, Spain) で Technical Section、Working Group の集会を開催した。Technical Section は毎年の開催が規定されており CIGR Co-sponsored Conference で個別に、例えば 2015 年では、St. Petersburg で Section V, Rouse, Bulgaria で Section IV, Auckland, New Zealand で Section VI 等を開催した。</p>
	<p>研究集会・会議等開催状況</p>	<p>2022 年 (開催地: Kyoto, Japan) 2021 年 (開催地: Quebec, Canada) 2018 年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016 年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2015 年 (開催地: St. Petersburg, Russia) 2014 年 (開催地: Beijing, China)</p>

様式第 2 (第12条関係)

		2013 年 (開催地 : Praha, Czech) 2012 年 (開催地 : Valencia, Spain) 2011 年 (開催地 : Tokyo, Japan) で Congress, Conference を開催した。Technical Section Co-sponsored、Supported 集会は年に数回開催されている。		
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022nenXX CIGR Congress (開催地 : Kyoto, Japan) ・ 2021 年 5th CIGR Conference (開催地 : Quebec, Canada) ・ 2018 年 XIX CIGR Congress (開催地 : Antalya, Turkey) 40 人 ・ 2016 年 4th CIGR Conference(開催地:Aarhus, Denmark)(代表派遣 : 梅田幹雄) ・ 2015 年 CIOSTA Conference(開催地:St. Petersburg) 2 人(代表派遣 : 梅田幹雄) ・ 2014 年 XVIII CIGR Congress (開催地 : Beijing) 40 人 (代表派遣 : 梅田幹雄) ・ 2013 年 CIGR Conference (開催地 : Praha) 2 人 (代表派遣 : 木村俊範) ・ 2012 年 3rd CIGR Conference (開催地 : Valencia) 12 人 (代表派遣 : 木村俊範。他 2 人) ・ 2011 年 Conference (開催地 : Tokyo, Japan)、70 人 (代表派遣 0 人、1 人は代理出席) 		
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	事務局長	2014～2017	梅田幹雄	(24 期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2015～2018	二宮正士	(23 期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2015～2018	木村俊範	(22 期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2018～2022	岸田義典	(24 期) 会員・ <u>連携</u>
	監査役	2015～2018	井上英二	() 期) 会員・連携
	監査役	2011～2014	真木太一	(24 期) 会員・ <u>連携</u>
	Section III セクレタリー	2011～2014	野口 伸	(24 期) 会員・ <u>連携</u>
出版物	1 定期的 (年 4 回) 主な出版物名 CIGR Newsletter (電子媒体) CIGR Journal (電子媒体) 2 不定期 () 主な出版物名 CIGR Handbook (I ～VI) CIGR VII Non-food material 編集委員会発足、2019 年出版予定			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (https://cigr.org)				

様式第 2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第 3 条、4 条、5 条)

国内委員会 (内規 4 条第 3 号)	委員会名	農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR 分科会
	委員長名	野口 伸
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>平成 30 年 1 月 22 日(第 1 回)、5 月 24 日(第 2 回)、10 月 19 日(第 3 回)、令和 2 年 1 月 10 日(第 4 回)、9 月 17 日(第 5 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ XX CIGR World Congress 2022 の開催準備 ・ 「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」 WG の活動について ・ 2019 年 9 月 13th CIGR Section VI International Symposium の札幌開催について ・ 次期役員を選考について
内規第 3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p><input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (https://cigr.org/node/79)</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> <p><input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (https://cigr.org/members_organizations)</p> <p>Who We Are の National Members に SCJ の名前で会員名簿に出ている。</p>	
	<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p><input checked="" type="radio"/> ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	
	<p>10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p><input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない</p>	
	加入国数及び 主要な各国代表会員を 10	<p>(96 ヶ国)</p> <p>CIGR の会員は、EurAnEng のような地域を代表する学術研究団体、FAO のような国連の団体、日本や韓国のような国を代表して加盟して</p>

様式第 2 (第12条関係)

	記載	<p>いる学術機関等がある。総会で投票権を行使できる団体は日本(SCJ)はじめ 19 であるが、96 か国の学術研究団体等の会員が参加している。</p> <ul style="list-style-type: none">・ American Society of Agricultural and Biological Engineers (ASABE)・ European Society Agricultural Engineers (EurAgEng)・ Food and Agriculture Organization of the UN (FAO)・ Australian Society for Engineering in Agriculture (SEAg)・ Brazilian Association of Agricultural Engineering (SBEA)・ Nigerian Society of Agricultural Engineers (NSAE)・ Korean Society for Agricultural Machinery (KSAM National・ Association Nationale des Ameliorations Foncières, de l'Irrigation, du Drainage et de l'Environnement (ANAFIDE)/Morocco・ Committee of Agricultural Engineering of the Polish Academy of Sciences (KTR PAN)/Poland・ Canadian Society for Bioengineering (CSBE)/Canada・ Chinese Society of Agricultural Engineering (CSAE)/China・ Czech Agricultural Society (CZS)/Czech・ Science Council of Japan (SCJ), National Committee for CIGR
--	----	---